

# 川内原発、配管に穴か

## 復水器に海水混入

### 九電 運転は継続、フル稼働延期

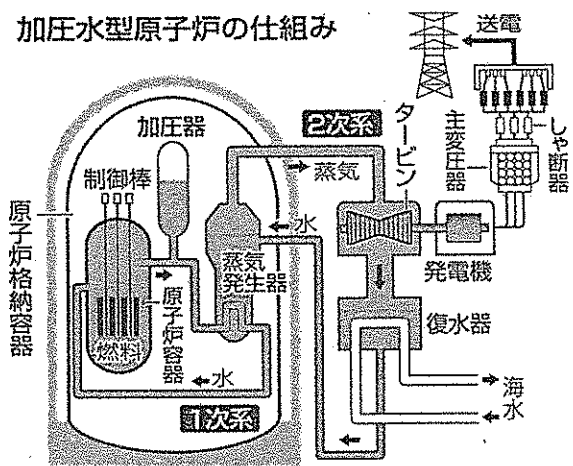
九州電力は21日、再稼働した川内原発1号機（鹿児島県薩摩川内市）について、復水器に海水が混入した恐れがあるため、予定していた75%から95%への出力上昇を延期すると発表しました。点検に少なくとも1週間程度

かかる見込みで、25日に予定していたフル稼働は遅れます。九電は「3台ある復水器のうち、1台に微量の海水が混入している」と推定されるが、除去できていると判断し、運転継続に支障はない」と説明しています。



九州電力川内原発＝鹿児島県薩摩川内市

加圧水型原子炉の仕組み



九州電力の資料を基に作製

九電によると20日午後、2次冷却水を循環させる復水ポンプの出口で、水中の塩分濃度を監視する「電気伝導率」の数値が上昇。復水器は発電タービンを回した後に2次冷却水を冷やす装置で、復水器内の水を調べたところ、実際に塩分濃度が上昇していました。復水器には、冷却用

の海水を取り込む細管（チタン製）が1台当たり約2万6000本通っています。九電はこの中のいずれかに穴が開き、海水が復水器内に漏れたとみています。点検で漏れ箇所が見つければ、その配管を封鎖するといいますが、同様のトラブルは全国で過去に50回ほど起

きているといい、川内原発では初めて。九電では玄海原発1号機（佐賀県玄海町）で1997年、99年の2回あったといいます。九電はトラブルの深刻度によってレベル0～4の5段階に分けており、今回は工程に影響するが運転を継続するという「レベル2」

にあたるとしています。九電が原子力規制庁に報告したのは、「電気伝導率」の数値上昇の警報から19時間後の21日午前9時25分。規制庁は同日の会見で、「法令上の報告事項ではないので、（公表姿勢について）言うべきことではない」と述べました。川内1号機は11日、新規制基準に基づき全国の新規で初めて再稼働

2次冷却水 原子炉の中で熱せられた高温高圧の水（1次冷却水）から蒸気発生器で熱をも

らって蒸気になる冷却水のこと。川内原発と同型の加圧水型原発では、この仕組みが使われています。 出力は16日に50%、19日に75%に到達し、21日に95%に上昇させる予定でした。

### 停止し原因究明を

で、今後トラブルがあらちろちろ出てくるのではないかと。さらに運転開始から31年経過しており、原因の究明が必要です。スタートから問題が出てきたわけで、少なくとも運転を停止して調べるべきです。また、2号機も長期間停止しているの

館野淳・元中央大学教授（核燃料化学）の話 川内原発1号機は4年以上、運転を停止していました。長い間運転をしていなかった原発は、腐食が進むの

か検討する必要があります。

8/22 手記